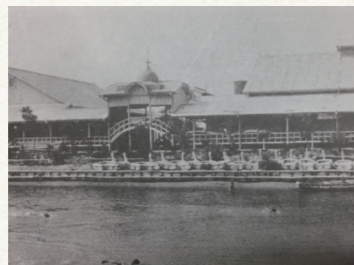


**7** 弁天島100mプール(楽園プール) 浜松市西区舞阪町弁天島

水泳で国内無敵を誇っていた大阪府の茨木中学校は、古くからプールを構えており、スタートやターンの設備も整っていた。田畑はこれに勝つために、プール建設を目論み、浜名湾游泳協会の幹事で、資産家であった長谷川鉄雄が建設。1921年(大正10年)6月4日、待望のプールが完成した。現在は公園となっている。



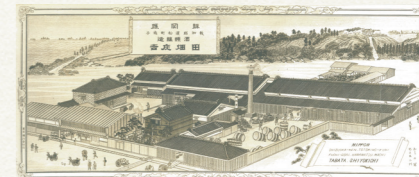
**8** 浜名湖大遠泳 浜松市西区村櫛町～北区細江町気賀

文武両道の浜松中学校では、厳しい水泳訓練が慣例となっており、館山寺では大遠泳の光景がよく見られた。庄内半島の村櫛から都田川河口の気賀までを泳ぐ大遠泳では、水泳時間6時間を超え、完泳率は4割以下という厳しさであった。そんな中、田畑は1年生の時から見事に完泳し、5年生の時まで毎年完泳を続けた。



**1** 田畑政治の生家跡 浜松市中区成子町63-3

田畑家は、造り酒屋を営む浜松有数の資産家であった。1872年(明治5年)の学制発布により設立された浜松学校へ多額の寄付を行い、堀留運河や遠江貯蓄銀行への出資や、浜松商業会議所(現・浜松商工会議所)の設立などにも加わっていた。田畑政治の兄(五六)の息子(皓志)は、酒屋をやめ、1967年(昭和42年)、広大な敷地にレストラン「浜松会館オーク」を設立。現在はコンビニエンスストアになっている。



**2** 浜松南尋常小学校 (現・双葉小学校) 浜松市中区海老塚2-5-1

1909年(明治42年)4月に浜松南尋常小学校が新設された。田畑家のある成子は南尋常小学校の通学区域となったために、この学校に移ることになるのだが、校舎が未完成のため、これまでの浜松尋常高等小学校内の教室にできた浜松南尋常小学校で学ぶことになった。田畑が6年生の同43年7月に浜松駅の南側にできた浜松南尋常小学校の新校舎へ通うことになった。



**3** 浜松中学校 (現・静岡県立浜松北高等学校) 浜松市中区広沢1-30-1

1911年(明治44年)、多くの秀才が志願する入学試験に合格。ちなみにこの頃の入試科目は国語・算術・作文・習字であったという。中学1年のとき、田畑が書いた作文「散歩」が「校友会誌」に掲載されるなど文才に長けており、ここでもトップクラスの成績だったそうだ。



**4** 浜松市営元城プール (現・浜松城公園芝生広場付近) 浜松市中区元城町100-2

1950年(昭和25年)、浜松市制40周年記念事業として市営プールが建設された。プールは9コースで50m、スタンドは1万2000人収容。当時の大阪、神宮、甲子園に次ぐ規模で、坂田市長は「元城プール」と命名した。プール開きには、日米の有名選手を浜松に招き、日米交歓水上大会を開催。プールは超満員の観衆で埋まった。現在は公園となっている。



アルバム「日米歓迎水泳大会」(日進堂カメラ店)より

『水泳の聖地 浜松』の旅  
**田畑政治**

ゆかりの地めぐり

田畑政治は第一高等学校(東京)進学のため、地元浜松を離れるもの、ふるさとを決して忘れることはなかった。浜名湖は「水泳ニッポン」の基盤を築いた田畑の原点。浜松・浜名湖周辺の田畑ゆかりの地をめぐり、当時の彼の思いを想像しながら足跡をたどってみよう。

**9** 古橋廣之進生家跡 浜松市西区雄踏町山崎

1928年(昭和3年)9月、古橋廣之進は9人兄弟の3番目で長男として誕生。父親は体格が良く力持ちだったため、廣之進は相撲取りになるといわれていた。



全国競泳最優秀校の表彰 [左から4番目が古橋/1941年(昭和16年)]

**10** 雄踏尋常高等小学校 浜松市西区雄踏町宇布見

小学校6年生の時、県大会で全国学童新記録を樹立。翌日の新聞には「豆魚雷あらかわ」という見出しで紹介され、一夜にして注目の的となった。



**11** 山崎プール跡・古橋廣之進顕彰碑 浜松市西区雄踏町山崎

昭和初期に、浜名湖を利用して造られた50mプールの跡地。隣の公園には古橋を讃える顕彰碑があり「私は水泳から『努力』『我慢』『克己』を学んだ」とある。



**6** 浜名湖弁天島茗荷屋旅館 浜松市西区舞阪町弁天島

1902年(明治35年)に活動開始した浜松中学校の水泳部は、舞阪町の宝珠院に本部を置き、茗荷屋旅館を借りて水泳訓練を行っていたが、参加者増加に伴い、3年後に茗荷屋を本部とした。茗荷屋を生家とする堀江耕造は、浜松中学校水泳部の中心人物。田畑と同じ東京帝大の大先輩であり、浜名湾游泳協会会長や日本水泳連盟副会長も務めた。旅館は現存していない。



浜松市博物館提供

**5** 田畑家の弁天島別荘 浜松市西区舞阪町弁天島

明治の中頃になると、海水浴が病気の治療に効果があるとされ注目を集めた。1889年(明治22年)に東海道鉄道が全通すると、浜松の資産家たちは弁天島に別荘をもつようになり、田畑家も弁天島のたもとに別荘を造った。田畑は幼少期からこの別荘で夏休みを過ごしており、自然に泳ぎを覚え、遠泳訓練を行っていた。別荘は現存していない。

